

CONTENTS

推薦の言葉—本書の発刊に際して（齋藤 滋）	3
序文（星岡 才賢）	5

第I部 基礎編 13

第1章 SH療法とは 14

1. SHTAの設立と理念	14
2. 狭窄歯列弓に関わって	16
3. 顎拡大療法（SH療法）の考え	17

第2章 狭窄歯列弓 19

1. 正常な歯列・咬合	19
2. 狭窄歯列弓の特徴	20
3. 狭窄歯列弓の原因	20
1) 上顎の劣成長	20
2) 臼歯部の内側傾斜	22
3) 食事と咀嚼の影響	23
4) 「機能」と「形態」と「環境」の関わり	28

特別寄稿1 岡崎好秀（国立モンゴル医学科学大学歯学部 客員教授） 29

●乳歯列咬合の変化とその背景にあるもの

特別寄稿2 馬場悠男（国立科学博物館 名誉研究員） 41

●顎顔面構造の変化～ホモ・サピエンス本来の姿を日本とエジプトで探る～

4. 狭窄歯列弓の及ぼす影響	46
1) 顎位と頭位と体位	46
2) 中顔面の劣成長と下顎位	48
3) 顎関節症	48
4) 閉塞性睡眠時無呼吸低呼吸症候群（OSAHS）	49
5. SH療法による閉塞性睡眠時無呼吸症（OSA）の治療と予防の可能性	50
1) 顎拡大法によるOSA治療	51

2) SH療法によりOSAの治療と予防法が可能であると考えられる根拠となる理論	52
3) SH療法による拡大症例	54
4) SH装置をOSAの治療と予防に適応する場合の留意すべき点	56
6. 不定愁訴	60

第3章 狭窄歯列弓への対応 63

1. 顎拡大の意義	63
2. SH療法による心身の変化	64
1) 心理的効果	64
2) 全身への効果(頭部と全身の安定)	64
3) 口腔および顔面部における効果	65
3. 顎整形力	67
4. SH装置の非装着時間(16時間)の意義	67

特別寄稿3 葛西一貴(日本大学松戸歯学部歯科矯正学講座 特任教授) 68

●咀嚼習慣の改善とその効果について

第4章 SH療法に関わる基礎医学 73

1. SH療法に関わる生理学	73
1) 消化器としての口腔	73
2) 呼吸	77

特別寄稿4 今井一彰(みらいクリニック 院長) 78

●口呼吸と鼻呼吸の概要と疫学

2. 成長発育	83
1) 顎顔面頭蓋の成長発育	83
2) 口腔の成長発育	85

第II部 治療編 87

第5章 SH療法を始める前に 88

1. SH療法の基本的な考え	88
2. SH療法の3大原則	89
3. SH療法の治療の流れ	89
4. SH療法の特徴	90
1) SH装置の特徴	90

2) 治療開始時期の目安	90
3) SH 装置の装着時間について	91
4) SH 療法の適応ではないこと、難しいこと	92
5) 難症例と考えられるもの	92

第6章 SH 療法の流れ 93

1. 治療相談	93
1) SH 療法の説明	93
2) コミュニケーション	95
3) ホスピタリティーの強化	95
2. 資料採得	97
1) 問診	97
2) 視診	97
3) 写真	97
4) パノラマエックス線写真（オルソパントモグラム）	99
5) 口腔内模型	99
6) 全身的健康状態の把握	100
7) 機能検査	101
3. 診査・診断と治療計画	107
1) 症例分析	107
2) 治療計画	112
4. 構成咬合位での観察	115
5. SH 装置の設計	117
1) SH 装置の構成と働き	117
2) SH 装置の設計	121
3) SHTA 専用技工指示書の記載方法	123
6. SH 装置の装着と調整	125
1) SH 装置の装着手順	125
2) 唇側線の調整	129
3) 舌側補助弾線（スプリング）の調整	131
7. 定期観察および指導管理	134
1) 定期観察	134
2) 指導管理	137
3) 口腔機能訓練	138
4) 食事指導	142
5) ガムトレーニング	147
6) 習慣への対応	148

8. 動的治療の終了と保定	149
1) SH 療法における保定の考え方	149
2) ダイナミックポジショナー	150
9. SH 療法の補助的装置の活用	151
1) オーソテインのパーツの種類と機能	152
2) SH 療法におけるオーソテインの使用例	155

第7章 SH 療法による生体変化の分析 157

1. CT および3D Image 画像による SH 療法受診者下顎臼歯部の植立状態の変化に関する検証	157
1) 抄録	157
2) 緒言	157
3) 検証資料および検証方法	158
2. オプトレース解析による咬合面観・面積・体積・咬合容積の形態の変化	162

第8章 SH 療法のこんなとき、どうする？ [治療のポイントQ&A] 173

Q1 萌出途中の歯に SH クラスプを設定する条件とは？	173
Q2 永久歯交換期（永久歯萌出時）に装置が不安定になってしまったときに、 チェックすることは？	173
Q3 犬歯間の拡大を十分に行うための床の平行性の確認方法は？	174
Q4 側切歯舌側転位での舌側スプリングの調整方法は？	175
Q5 臼歯部の舌側転位におけるスプリングの調整方法は？	175
Q6 唇側線に部分的に矯正力を掛けたいときは、どうする？	176
Q7 SH クラスプや唇側線の破折を防止するための調整方法は？	177
Q8 遠心移動や片側拡大が必要な場合の設計は？	178
Q9 永久歯交換期のクラスプの設計部位は？	178
Q10 思い通りの歯列になっていない場合は？	180
Q11 長期間 SH 装置使用後に不適合になった床本体について、 どこに不具合があるのかを確認する方法は？	181
Q12 SH 装置が浮き上がって収まらないときは？	181
Q13 動かない、拡大していないようだが、この場合の対処法は？	182

Q14	開咬への対処法は？	182
Q15	SH装置を併用しながらの第二大臼歯アップライトの方法は？	183
Q16	一部の浅い前歯部反対咬合の改善方法は？	184
Q17	ダイナミックポジショナーの使い方について、 どのような症例でどのようなタイミングで使用するのか？	185

第Ⅲ部 症例編 187

第9章 SH装置を用いて顎拡大治療を行い健康へと導いた症例（一般症例） 188

1. 叢生	188
症例1 小児叢生症例（患者さんと共に）（長谷川 須美）	188
症例2 非対称性叢生症例（長谷川 須美）	191
症例3 小児叢生症例（三森 昭彦）	195
症例4 小児叢生、片側拡大症例（森田 健太郎）	199
症例5 小児叢生症例～短期間で舌房の変化～（篠原 良道）	204
症例6 小児叢生症例～オーラルポスチャー（口腔の姿勢）の変化～（松井 毅）	206
症例7 成人叢生、下顎後退症例（長谷川 須美）	209
症例8 前歯部および左右臼歯部叢生のSH療法による治療例（三森 昭彦）	211
症例9 成人における上下顎狭窄歯列による叢生症例（森田 健太郎）	216
2. 上顎前突	220
症例10 臼歯部缺状咬合を伴った症例（長谷川 須美）	220
症例11 前歯部前突症例（熊坂 治夫）	222
3. 反対咬合	224
症例12 下顎前突症例（三森 昭彦）	224
4. 開咬	228
症例13 開咬症例（熊坂 治夫）	228
症例14 開咬症例（長谷川 須美）	232
5. 顎関節症	235
症例15 成人叢生、左側顎関節症（長谷川 須美）	235
6. 姿勢の変化	239
症例16 交叉咬合と姿勢（長谷川 須美）	239

症例17	口腔内の状態と姿勢の関連が考えられる症例① (三森 昭彦).....	241
症例18	口腔内の状態と姿勢の関連が考えられる症例② (三森 昭彦).....	244
7.	オーソティンを使用した症例	248
症例19	SH療法採用前に習癖の改善を促すハビットコレクター装置装着で 効果のあった症例① (星岡 才賢)	248
症例20	SH療法採用前に習癖の改善を促すハビットコレクター装置装着で 効果のあった症例② (星岡 才賢)	251
症例21	SH装置装着前処置としてオーソティンを使用した症例 (森田 健太郎).....	254
症例22	永久歯交換期においてSH装置とオーソティンを併用した症例 (森田 健太郎).....	257
第10章 睡眠時無呼吸症候群 (OSAS) における SH療法の応用		
1.	成人の場合	261
症例 1	中等度睡眠時無呼吸症 (星岡 才賢)	261
症例 2	重度睡眠時無呼吸症 (星岡 才賢)	266
症例 3	SH療法による睡眠時無呼吸症の改善 (熊坂 治夫)	273
2.	小児の場合	279
症例 4	小児睡眠時無呼吸症① (長谷川 須美)	279
症例 5	小児睡眠時無呼吸症② (長谷川 須美)	283
あとがき—本書の編集を終えて (松井 毅).....		286
著者紹介		287

